

ふたばっ子とともに

R4. 10. 31

10/20(木)に、令和5年度の新入学児童を対象とした「就学児健診」を行いました。子供たちは保護者の方と一緒に来校し、校医さんと本校職員による健診を受けました。

子供たちが検査を受けている間、保護者の皆様には、体育館で入学に当たって必要な購入物品や手続等の説明を行いました。

その冒頭に、校長として御挨拶申し上げました。その際にお伝えした内容について、お知らせします。

『安心感を与える』

—前略—

せっかくの機会ですので、小学校入学に向けて、お子さんに「取り組ませてほしいこと」と、保護者の皆様に「大切にしていきたいこと」をお話します。

お子さんに取り組ませてほしいこと、それは「何かを最後までやりきること」です。

「食事」や「片付け」「着替え」など、一つことを始めたら、できる限り最後までやりきらせてください。時間がかかっても、最後までやりとげられるように励ましていただければと思います。また、できましたら「〇〇をしながら」ではなく、一つ一つ集中して物事と向き合えるようにさせてあげてください。一つのことに集中して取り組むことが良い習慣となり、子供たちの脳の発達を助けることになると言われています。特に「自分で決めたこと」に、最後まで取り組むことはとても大切です。それは、きっとお子さんが小学校に入学した後、学びの支えとなることでしょう。もちろん、小学校入学までに「これだけのことができなければいけない」という規準はありません。ですから「叱ってやらせる」ということではなく、お子さんのペースで、できることが一つずつ増えていくように、集中する時間が少しずつのびていくのを見守っていただければと思います。

そして、保護者の皆様に大切にしていきたいことは、「安心感を与える」ということです。違う言い方をしますと、「お子さんの心を愛情で満たす」ということになると考えます。

今、皆様の中にある、お子さんの小学校入学に対する不安や心配と同様に、お子さんの心にも、少なからず不安や心配はあります。だからこそ、「大丈夫」「頑張れる」という思いを持って、入学を迎えてほしいと願っています。

そのために、今からお聞きする3つの質問について、お子さんとの日頃のかかわり方はどのような感じなのか、少し振り返ってみてください。

まずは、①たくさんほめてあげていますか。

どんな小さなことでも、当たり前のことでも構いません。できたこと、がんばったことをほめてもらえると、子供たちは自信を深めていきます。

次に、②しっかりと目を見て、お話を聞いてあげていますか。

御多用の毎日かと思えますし、情報端末も日常的なものとなり、スクリーンに目を向ける時間も増えてきていることでしょう。ただ、子供たちが「自分の伝えたいことを、聴いてもらいたい相手に、しっかりと受け取ってもらえた」という思いは、日々の満足感につながります。この「自信」と「満足感」は、子供たちの「安心感」となっていくはずです。

最後に、③必要に応じて、スキンシップをはかっていますか。

手をつなぐ、ハグをする、頭をなでるなど、保護者の皆様のぬくもりが、お子さんへ直接的に伝わることは、何よりも大きな「安心感」につながることでしょう。「もうすぐ1年生になるのだから」ではなく、ぜひ、お子さんが求めるスキンシップに、上手に応えていただければと思います。

例えば、こうした「愛情を受け取るカップ」が、子供たちの心の中にあるとしたら、これら3つの行為一つ一つによって、カップの中に、保護者の皆様からの「愛情」が、少しずつためられていくこととなります。

保護者の皆様をはじめ他者からの愛情が、このカップからあふれるほどに満たされた子は、いろいろなことを頑張りぬくことができます。また、自分以外の誰かに優しく接したり、周りの人と思いやりの心をもって向き合ったりすることができるようになります。私は、教員として小学生、中学生、そして高校生とも関わってきましたが、これは、どの年代になっても当てはまると感じています。

ただ、このカップは、なかなか満タンにはなりません。そして、カップに注ぐのも「大人の都合や考えによって与える愛情」ではなく「子供目線での愛情」でなければだめなようです。

保護者として、日々お子様のために御努力されている皆様には、蛇足的なお話をさせていただきましたが、ここからの半年、そして御入学後も、お子さんに「安心感」を与えることを大切に向き合っていただければと思います。

4月。入学式を終えて、新1年生として小学校に通い始める子供たち。大きな喜びや嬉しさの反面、様々な不安や心配を抱えながら、学校生活をスタートします。そんな時に支えになるのは、やはり、保護者や家族の皆様はもちろん、その子に関わる全ての人たちの温かな見守りや励ましです。それは、新1年生だけでなく、生まれてから小学校に入学するまでの間も、もしかしたら幾つになっても必要なものなのではないかと、私は思います。

「これで大丈夫」「これなら頑張れる」…双葉小の子供たちが、そんな安心感を感じて、日々の生活を送られるように、これからもたくさんの愛情を注いでいただけたらと思います。職員一同、少しでもプラスなる愛情をカップに注ぎこめるよう、今後も支援と指導に努めていきたいと思っております。